

2010年度 入試結果速報

新型インフルエンザ、景気の低迷などの影響が心配された2010年度の大学入試。学費の安い国公立大の人気が高まり、「教育」「看護」で志願者の大幅な増加が目立った。私立大では、昨年からの地元志向・安全志向が継続しており、加えてセンター利用方式の積極的な活用が見られたのが特徴である。

以下、今春入試の状況について、大学入試センター試験の結果と3月10日時点で判明している大学の志願状況についてレポートする。

2010年度入試の概観

- 大学志願者数は増加の見込み（首都圏は増加数大）
- センター試験平均点 理系7科目型で大幅ダウン
- 景気低迷と就職環境の悪化
- 新型インフルエンザへの懸念

国公立大学の志願動向

- 学費の安い国公立大人気の高まり
- 少数科目で受験可能な公立大の人気上昇
- 「教育」「看護」で志願者大幅増目立つ
- 各所で見られる安全志向
 - ・昨年の難化大を敬遠する動き
 - ・教育—教員養成・総合科学課程の志願者増加
 - ・昨年の人気系統「理」「農」の敬遠
 - ・狙い目感のある「工」学系へ

私立大学の志願動向

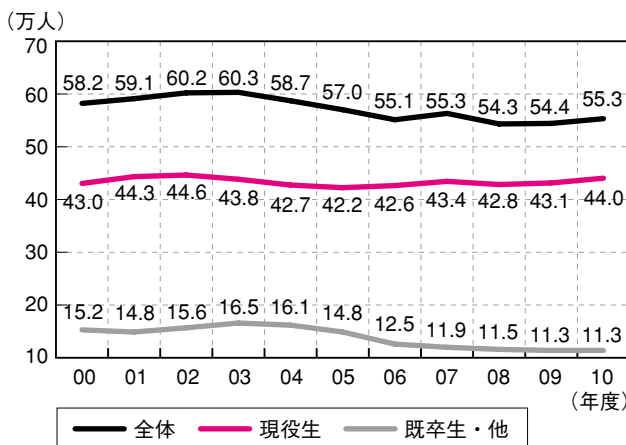
- 負担軽減とリスク回避
センター利用方式の積極的な活用
- 関東地区は受験人口増もあり志願者増
近畿地区は私立大敬遠傾向
- 地元志向 地方→都市部への動き鈍化
他地区受験生比率の高い大学で志願者減
- 安全志向 難度を下げた無理をしない出願
- 国公立大同様、資格系学部が人気

Part 1 大学入試センター試験

上昇が続くセンター試験志願率

今年の大学入試センター試験（以下、センター試験）は1月16・17日の2日間にわたって全国725の試験会場で実施された。志願者数は昨年より約9千人多い553,368人（前年比101.7%）であった【図表1】。志願者

【図表1】センター試験 志願者数推移



男女別 センター試験志願者数

	09年度	10年度	前年差	前年比
男	313,693	318,259	+4,566	101.5%
女	230,288	235,109	+4,821	102.1%
全体	543,981	553,368	+9,387	101.7%

※大学入試センター資料より

の内訳を見ていくと、現役生が440,148人（昨年431,263人）で8,885人増、高校既卒生・その他が113,220人（昨年112,718人）で502人増といずれも増加した。

現役生が大きく増加したのは、今春の高校などの卒業予定者数が18年ぶりに増加に転じる見込みであることに加え、高校卒業見込者のうちセンター試験を志願する割合（以下、センター志願率）が上昇している影響も大きい。センター志願率は昨年の40.5%から0.5ポイント上昇して過去最高の41.0%となった。また、センター志願率の上昇は、高校卒業見込者のうち大学を志願する者の割合（大学志願率）が今春も上昇していることを裏付けている。特に女子の大学志願率の上昇が目立っている。

志願者数を出身都道府県別に見ると、36都道府県で昨年を上回った。志願者数が最も増加したのは1,409人増となった東京都で、4年連続の増加となった。以下、神奈川県、埼玉県、愛知県、静岡県が続き、東海から首都圏で志願者数の増加が大きくなっている。一方、京都府（201人減）をはじめ、和歌山県、滋賀県、佐賀県など近畿以西の地区では志願者数の減少が目立った【図表2】。

受験者は約1万3千人増 受験率も93年以降最高に

次に受験状況を見てみよう。【図表3】はセンター試験

の受験者数の推移をまとめたものである。今年のセンター試験の受験率は94.1%と昨年から0.8ポイント上昇した。受験率が94%を超えたのは1992年以来18年ぶりである。今年は新型インフルエンザの影響により受験率の低下が懸念されていたが、本試験の志願者数に対する受験率は93.9%と、こちらも近年では最も高い率となり、結果的には新型インフルエンザの影響はそれほど大きくなかった。

なお、新型インフルエンザの感染拡大に備え、当初の予定から1週間延期された追試験の受験許可数は、過去最多の972人となった。このうちインフルエンザを事由とする者は509人とどまった。

【図表4】は、受験科目数別の受験者数である。今年の特徴は、多くの国立大で必要となる7科目以上の受験者数の増加率が例年以上に高くなっていることである。7科目以上の受験者数は前年から11,511人増の299,904人(前年比104.0%)となった。このことから今年の受験生の国公立大志向の高さがうかがえる。ただし、7科目以上の受験者の内訳を見ると、8・9科目の受験者は減少傾向にある。「文系生の理科2科目受験」「理系生の地

歴公民2科目受験」が減少しており、受験生が必要な教科・科目を絞って受験している様子が見てとれる。

**科目別の平均点
数学・理科で平均点が大きく変動**

【図表5】は大学入試センターが公表した科目の平均点と受験者数である。今年は理系科目の数学と理科で平均点が大きく変動した。

科目別に見ると、最も受験者数の多い英語や2006年度の導入以降、年々難化していた英語リスニングテストで平均点がアップしたほか、生物I、地学Iでは平均点が10点以上アップした。生物Iは問題の文章量や選択肢数が減少し、難しい考察問題も減少したため、易化したと考えられる。

一方、数学I・数学A(-15点)、国語(-8点)、物理I(-10点)、化学I(-16点)、政治経済(-10点)の平均点が大きく下がった。数学I・数学Aでは目新しい出題が加わり、後半の第3問・第4問が例年よりも思考力を必要としたこともあって、点を取りにくかったようだ。理科では理系受験者の多い2科目(物理・化学)と文系受験者

【図表2】センター試験 都道府県別志願者数

《増加数の多い都道府県》

都道府県	09年度	10年度	前年差
東京都	61,860	63,269	+1,409
神奈川県	30,980	32,146	+1,166
埼玉県	27,707	28,581	+874
愛知県	34,717	35,451	+734
静岡県	16,010	16,731	+721
千葉県	23,324	23,927	+603
福岡県	22,924	23,460	+536
北海道	19,449	19,816	+367
茨城県	13,700	14,025	+325
宮城県	8,858	9,170	+312

※大学入試センター資料より

《減少数の多い都道府県》

都道府県	09年度	10年度	前年差
京都府	10,663	10,462	-201
和歌山県	4,150	3,961	-189
滋賀県	5,963	5,829	-134
佐賀県	4,455	4,404	-51
大分県	4,462	4,417	-45
岩手県	5,842	5,808	-34
宮崎県	5,035	5,001	-34
鹿児島県	8,054	8,027	-27
徳島県	3,688	3,662	-26
新潟県	10,737	10,719	-18

【図表3】センター試験 受験者数推移

年度	受験者数				受験率
	総数	本試験のみ	追・再試験のみ	本+追・再	
00年度	532,797	532,442	249	106	91.6%
01年度	539,209	538,966	155	88	91.3%
02年度	553,465	553,263	141	61	91.9%
03年度	555,849	555,474	239	136	92.2%
04年度	540,446	540,092	232	122	92.0%
05年度	524,603	524,393	101	109	92.0%
06年度	506,459	506,241	125	93	91.9%
07年度	511,272	511,105	77	90	92.4%
08年度	504,387	504,136	65	186	92.8%
09年度	507,621	507,345	125	151	93.3%
10年度	520,600	519,707	453	440	94.1%

※大学入試センター資料より

※率は志願者数に対する割合

【図表4】センター試験 受験科目数別受験者数

受験科目数	09年度		10年度		前年差
	受験者数	率	受験者数	率	
9科目	18,945	3.7%	17,371	3.3%	-1,574
8科目	90,526	17.8%	90,360	17.4%	-166
7科目	178,922	35.2%	192,173	36.9%	+13,251
6科目	18,753	3.7%	19,328	3.7%	+575
5科目	24,886	4.9%	25,834	5.0%	+948
4科目	48,563	9.6%	48,747	9.4%	+184
3科目	109,329	21.5%	109,259	21.0%	-70
2科目	14,835	2.9%	14,724	2.8%	-111
1科目	2,862	0.6%	2,804	0.5%	-58
合計	507,621	—	520,600	—	+12,979

平均受験科目数	5.79	5.81
---------	------	------

※大学入試センター資料より

※率は全受験者に対する割合

の多い2科目（生物・地学）とで対照的な結果となった。

【図表6】はセンター・リサーチ（河合塾主催 センター試験自己採点集計）における数学Ⅰ・数学Aと化学Ⅰの受験者の成績分布である。これらの科目では、昨年は満点を取った受験生が多かったが、今年は高得点者が大きく減少し、分布の形は平均点付近を頂点とした山型へ

と変化している。

**総合型平均点
理系7科目型の平均点が大きくダウン**

【図表7】はセンター試験の総合型の平均点の推移である（いずれも河合塾推定）。

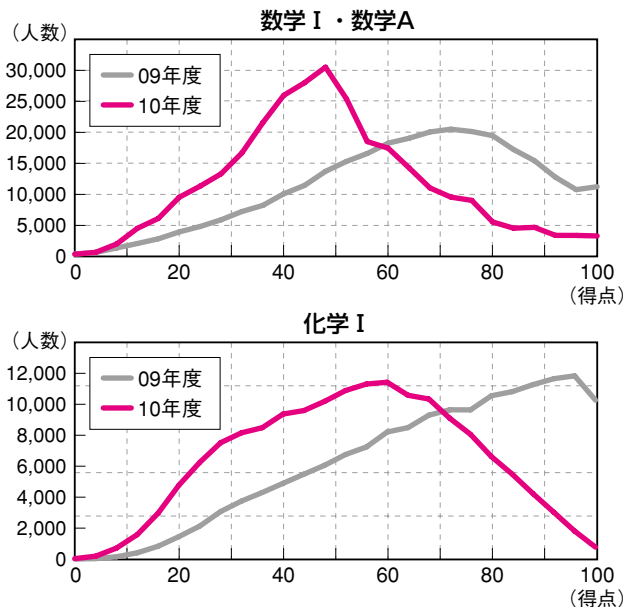
7科目型の平均点は7科目文系型(900点満点)が545点(-7点)、7科目理系型(900点満点)が542点(-27点)といずれもダウンした。文系型・理系型とも国立大が7科目化された2004年度以降で最も低い平均点となった。特に理系型は、理系受験者の多い物理、化学の平均点が大きくダウンしたこと、得点源であった数学Ⅰ・数学Aが難化したことが影響して減少幅が大きくなり、初めて7科目文系型の平均点を下回った。

【図表5】センター試験 教科・科目別平均点・受験者数(本試験)

教科・科目名		平均点			受験者数		
		09年度	10年度	前年差	09年度	10年度	前年差
外国語	英語	115.02	118.14	+3.12	500,297	512,451	+12,154
	リスニングテスト	24.03	29.39	+5.36	494,342	506,898	+12,556
数学①	数学Ⅰ	49.34	40.87	-8.47	9,209	9,555	+346
	数学Ⅰ・数学A	63.96	48.96	-15.00	354,609	368,289	+13,680
数学②	数学Ⅱ	28.39	35.94	+7.55	7,503	7,018	-485
	数学Ⅱ・数学B	50.86	57.12	+6.26	319,045	331,215	+12,170
国語		115.46	107.62	-7.84	484,871	497,431	+12,560
理科	理科総合A	56.59	63.38	+6.79	30,427	29,315	-1,112
	理科総合B	58.35	64.83	+6.48	17,175	16,372	-803
	物理Ⅰ	63.55	54.01	-9.54	143,646	147,319	+3,673
	化学Ⅰ	69.54	53.79	-15.75	200,411	208,168	+7,757
	生物Ⅰ	55.85	69.70	+13.85	176,043	184,632	+8,589
	地学Ⅰ	51.85	66.76	+14.91	25,921	24,406	-1,515
地理歴史	世界史A	44.18	52.31	+8.13	2,187	1,979	-208
	世界史B	62.70	59.62	-3.08	94,106	91,118	-2,988
	日本史A	46.51	48.42	+1.91	4,365	4,094	-271
	日本史B	57.94	61.51	+3.57	144,327	151,792	+7,465
	地理A	54.70	53.58	-1.12	5,501	4,980	-521
	地理B	64.45	65.11	+0.66	109,616	110,093	+477
公民	現代社会	60.19	58.76	-1.43	169,711	171,419	+1,708
	倫理	71.51	68.66	-2.85	53,116	55,849	+2,733
	政治経済	69.31	59.16	-10.15	82,804	89,887	+7,083

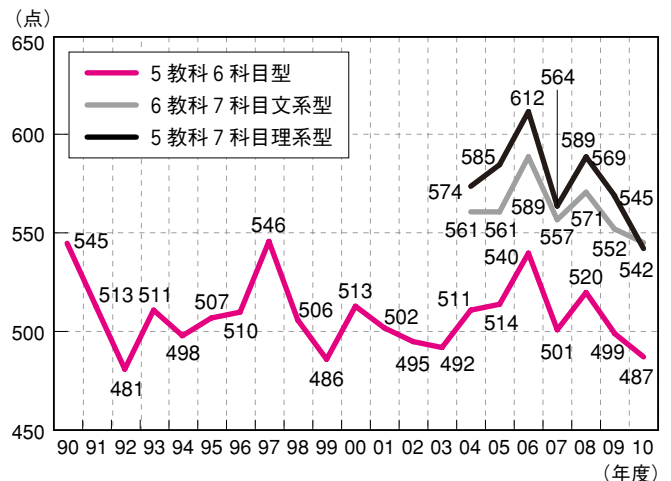
※大学入試センター資料より

【図表6】センター・リサーチ 数学Ⅰ・数学A、化学Ⅰの得点分布



※河合塾「センター・リサーチ」より

【図表7】センター試験 総合型平均点推移



※河合塾推定
 ※5教科6科目型：英・数(2)・国・理(1)・地公(1)(7科目型生を含む)(800点満点)
 ※6教科7科目文系型：英・数(2)・国・理(1)・地(1)・公(1)(900点満点)
 ※5教科7科目理系型：英・数(2)・国・理(2)・地公(1)(900点満点)
 ※英語は筆記＋リスニングの250点を200点に換算して集計

Part 2 国公立大学

2010年度の国公立大の志願者数は489,280人で、前年から約1万4千人増加した。志願者数増加の要因は、18歳人口の減少が一段落し増加に転じていることに加え、不況を背景とした受験生の国公立大志向の高まりであろう。学費の安い国公立大にこだわる受験生が例年以上に多かったと考えられる。

個別の大学の状況を見ていくと、センター試験で平均点がダウンした影響もあってか、前年難化したところを敬遠する動きが随所に見られた。難関大よりも地方の国公立大で志願者の増加が目立ち、全体的に受験生の安全志向が感じられる出願状況であった。

学部系統別の人気を見ると、「教育」「看護」といった資格分野で志願者の増加が目立った。大学生の就職難が伝えられるなか、大学卒業後の進路を意識した受験生の人気の変化が感じられる。

以下、2010年度の国公立大の志願状況について詳細を見ていく。

国公立大志願者数は約1万4千人の大幅増

国公立大一般選抜の志願者数は、前年から14,260人増加して489,280人（前年比103.0%）であった。募集人員に対する志願倍率も前年の4.76倍から0.13ポイント上昇し4.89倍となった【図表8】。

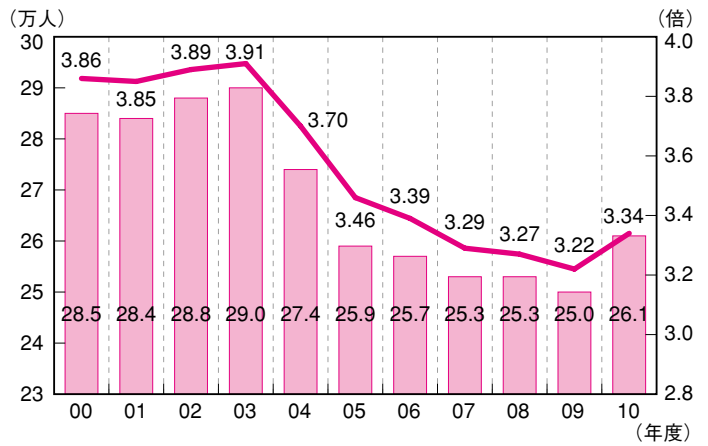
日程別に集計しても、いずれの日程も志願者が増加した。国公立大入試の中心である前期日程の志願者数は、前年から約1万1千人増の261,289人（前年比104.6%）、志願倍率は前年から0.12ポイントアップし3.34倍となった。前期日

【図表8】国公立大志願状況

区分	日程	募集人員		志願者数				志願倍率	
		09年度	10年度	09年度	10年度	前年差	前年比	09年度	10年度
国立	前期	63,848	64,121	194,998	201,660	+6,662	103.4%	3.05	3.14
	後期	16,956	16,578	158,445	158,752	+307	100.2%	9.34	9.58
	計	80,804	80,699	353,443	360,412	+6,969	102.0%	4.37	4.47
公立	前期	13,842	14,021	54,863	59,629	+4,766	108.7%	3.96	4.25
	後期	3,332	3,391	41,357	43,223	+1,866	104.5%	12.41	12.75
	中期	1,915	1,901	25,357	26,016	+659	102.6%	13.24	13.69
	計	19,089	19,313	121,577	128,868	+7,291	106.0%	6.37	6.67
国公立計	前期	77,690	78,142	249,861	261,289	+11,428	104.6%	3.22	3.34
	後期	20,288	19,969	199,802	201,975	+2,173	101.1%	9.85	10.11
	中期	1,915	1,901	25,357	26,016	+659	102.6%	13.24	13.69
	計	99,893	100,012	475,020	489,280	+14,260	103.0%	4.76	4.89

※文部科学省資料より ※志願倍率は志願者数/募集人員
 ※国際教養大、新潟県立大および新見公立大は独自日程で実施されているため上記の表には含まれていない

【図表9】国公立大 前期日程志願者数と志願倍率推移



※文部科学省資料より 棒グラフが志願者、折れ線グラフが志願倍率を示す

程の志願者増加は2003年度以来7年ぶりである【図表9】。

国立大と公立大に分けて見ると、国立大が前年比103.4%、公立大が前年比108.7%と、今年は公立大での志願者増加が目立った。公立大では、センター試験で7科目を必要とせず少数科目で受験できる大学も多い。例年以上に私立大型受験生を取り込んだことや、今年の人気分野となっている「看護」を含む医療系の単科大が多いことが、高い伸びにつながった。

後期日程は約2千人の増加となった。ここ数年、難関大や医学科を中心に後期日程の廃止・縮小が続いた影響で、前期日程以上に志願者が減少していた後期日程だが、今年は難関大での後期日程廃止・縮小の動きが一段落したことに加え、例年以上に後期日程まで粘り強く出願を考えた受験生が多かったことが、志願者の増加につながったようだ。

公立12大学で実施される中期日程の志願者数は、前年から659人増（前年比102.6%）となった。実施大学数が少なく例年多くの志願者が集まり、高い志願倍率となる中期日程は、隔年現象が起きやすいという一面も

ある。今年も、昨春志願者が大幅に減少した高崎経済大（経済）、岐阜薬科大などで増加数が大きかった。

難関国立大の状況 東大人気は落ち着きを取り戻す

【図表10】は旧帝大を中心とした難関12大学の志願状況をまとめたものである。

難関12大学全体では、前期日程で599人増（前年比101.0%）となった。国公立大全体の伸び率から見れば低いとはいえ、センター試験の平均点ダウンに伴い難関大の敬遠傾向も予測されたなかでの志願者増は、根強い人気を感じさせた。

大学別に見ると、**東京大**は前年比95.6%と2年連続で志願者が減少しており、加熱気味だった東大人気は落ち着きを取り戻しつつある。河合塾が昨年実施してきた模擬試験でも、東海以西の志望者の減少が目立っていた。加えて、模擬試験では比較的堅調に集まっていた関東地区の受験生も、センター試験後の志望調査（センター・リサーチ）では、センター試験の平均点ダウンが影響してか、一橋大をはじめ首都圏の他の国立大に受験生の志望が移っている様子がうかがえた。最終的な志願状況にもその傾向が反映されている。

その中でも象徴的なのは、文系最難関の文科一類である。志願者数は前年比77.0%と大きく減少した。昨年の志願者大幅増の反動に加えて、センター試験の結果を受けて、出願を回避した受験生も多かったようだ。また、昨年の入試で前期日程としては過去最多の志願者数となった理科三類も前年比93.0%と減少した。

東京大敬遠の影響を大きく受けたのが**一橋大**で、大学全体の志願者数は前年比105.9%と大きく増加した。法学部が2割増、経済学部が4割増となっており、東京大（文科一類、文科二類）の志願者減と対照的な動きを示した。

近畿地区の京都大、大阪大、神戸大の3大学はいずれも志願者が増加した。中でも模擬

試験で高い人気を示していた**京都大**が前年比104.1%と増加率が高い。昨年大幅に志願者を減少させた文学部が3割増となったほか、法学部（前年比107.9%）、総合人間学部（同107.8%）、工学部（同105.0%）、農学部（同106.1%）も高い伸び率を示した。

大阪大は、京都大同様に文学部や法学部などで志願者を増加させたほか、理学部が前年比118.7%と大幅増となった。京都大（理学部）が昨春入試での志願者大幅増の反動から、今年は1割以上志願者が減少しており、その影響を受けた格好だ。

東京大同様に志願者の減少率が大きかったのが**名古屋大**である。ノーベル賞受賞者輩出などで注目を集め、昨年は大きく志願者数を伸ばしたが、今年は法学部、経済学部、医学科などで減少数が大きくなった。

12大学中、最も志願者数が増加した**広島大**（前年比113.2%）は、昨年大幅な志願者減となったため、その反動も大きかったようである。

学部系統別の志願状況 看護、教員養成が人気

【図表11】は国公立大の前期日程の志願状況を、学部系統別に集計したものである。「農・林・水産・獣医」学系で前年比99.3%と若干下回ったものの、他の学系はいずれも前年を上回る志願者を集めた。

今年の特徴は、「看護」「教員養成課程」といった資格系統が高い伸びを示したことだ。不況の折、大学生の厳しい就職状況が伝えられるなか、卒業後に地元での就職が見込める両分野は高い人気を示した。

【図表10】難関国立大の志願状況

大学名	前期日程				後期日程			
	09年度	10年度	前年差	前年比	09年度	10年度	前年差	前年比
北海道	5,506	5,428	-78	98.6%	4,528	4,235	-293	93.5%
東北	5,326	5,341	+15	100.3%	1,354	1,413	+59	104.4%
東京	9,877	9,439	-438	95.6%	3,166	3,137	-29	99.1%
東京医科歯科	740	781	+41	105.5%	365	426	+61	116.7%
東京工業	3,262	3,286	+24	100.7%	2,145	2,080	-65	97.0%
一橋	3,146	3,332	+186	105.9%	1,566	1,473	-93	94.1%
名古屋	5,153	4,960	-193	96.3%	26	31	+5	119.2%
京都	7,991	8,320	+329	104.1%	—	—	—	—
大阪	7,201	7,265	+64	100.9%	6,508	6,729	+221	103.4%
神戸	5,669	5,801	+132	102.3%	5,678	5,448	-230	95.9%
広島	3,949	4,469	+520	113.2%	2,529	2,596	+67	102.6%
九州	5,074	5,071	-3	99.9%	2,870	2,879	+9	100.3%
難関12大計	62,894	63,493	+599	101.0%	30,735	30,447	-288	99.1%
その他大計	186,967	197,796	+10,829	105.8%	169,067	171,528	+2,461	101.5%

※河合塾調べ

※「その他大計」は難関12大を除いた国公立大計

なお、「芸術・体育」学系で前年比169.3%と高い伸びを示しているが、これは東京芸術大（美術）が後期日程から前期日程に募集を変更したため、前期日程の志願者が見かけ上増加した影響である。

以下、系統別に状況を確認してみよう。

【文・人文】

系統全体では前年比102.8%と昨年を上回る志願者を集めた。

難関大では、京都大（文）が前年比131.6%と志願者大幅増となったほか、大阪大（文）112.2%、東北大（文）107.2%でも増加した。一方、北海道大（文）、九州大（文）では2年連続で志願者を減少させた。近畿地区では、京都大、大阪大のほか、神戸大（文）100.8%、京都府立大（文）117.8%、大阪市立大（文）114.4%、神戸市外国語大（外国語）115.4%といったように、文・人文系学部の志願者増加が目立った。

【社会・国際】

系統全体では前年比101.2%と前年並みとなった。分野別にみると、「国際関係」分野が約2割の志願者増となった。群馬県立女子大（国際コミュニケーション）が前年比174.2%、静岡県立大（国際関係）129.4%、広島市立大（国際）113.8%など、少数科目で受験可能な公立大での大幅増が目立つ。

また、近年人気低迷していた「社会福祉」分野も志願者が増加した。名寄市立大（保健福祉-社会福祉）で志願

者が71人→152人と倍増したほか、大阪市立大（生活科学-人間福祉）でも前年比164.9%と大幅に増加した。生活科学部の募集停止に伴い入学定員が30名→70名へ増員となった高知女子大（社会福祉）でも志願者数は115人→152人と増加したが、募集人員増加に伴い志願倍率は低下した。

【法・政治】

系統全体では前年比103.2%と増加し、安定した人気を見せた。難関大では、東京大を敬遠した動きから一橋大（法）が前年比117.9%と志願者を増やしたほか、東北大（法）112.1%や京都大（法）107.9%、大阪大（法）105.1%、神戸大（法）107.9%と、近畿の難関3大学で志願者が増加した。

一方、昨年志願者を増やした東京大（文科一類）77.0%や名古屋大（法）90.1%、九州大（法）93.6%はやや敬遠された格好となった。九州大ではAO入試廃止に伴い、前・後期ともに15名の募集人員増となったが、いずれの日程も志願者が減少した。

このほか、首都大学東京（都市教養-法学系）では、志願者数が1,045人→1,453人（前年比139.0%）と大幅増となった。センター試験3教科で受験可能なことから首都圏の私立大型受験生の併願先となりやすいうえ、志願者の減少が続き昨年の志願倍率が3倍を切っていたことも、志願者の増加につながったと推測される。

【経済・経営・商】

系統全体では前年比101.0%と落ち着いた志願状況となった。東京大（文科二類）が前年比94.8%と文科一類

【図表11】国公立大 前期日程 学部系統別志願状況

系統	募集人員		志願者数				志願倍率	
	09年度	10年度	09年度	10年度	前年差	前年比	09年度	10年度
文・人文	7,367	7,380	25,719	26,437	+718	102.8%	3.49	3.58
社会・国際	2,099	2,119	8,184	8,283	+99	101.2%	3.90	3.91
法・政治	4,185	4,159	13,803	14,247	+444	103.2%	3.30	3.43
経済・経営・商	7,985	8,027	28,719	29,014	+295	101.0%	3.60	3.61
教育-教員養成課程	6,794	6,886	18,779	20,386	+1,607	108.6%	2.76	2.96
教育-総合科学課程	2,831	2,738	9,121	9,761	+640	107.0%	3.22	3.57
理	4,944	4,944	14,791	14,919	+128	100.9%	2.99	3.02
工	22,006	22,006	62,176	64,583	+2,407	103.9%	2.83	2.93
農・林・水産・獣医	5,359	5,350	17,288	17,161	-127	99.3%	3.23	3.21
医・歯・薬・保健	10,078	10,314	37,112	38,497	+1,385	103.7%	3.68	3.73
医	3,393	3,576	17,040	17,176	+136	100.8%	5.02	4.80
歯	459	469	1,575	1,610	+35	102.2%	3.43	3.43
薬	790	799	2,750	2,713	-37	98.7%	3.48	3.40
看護	3,645	3,648	10,525	11,530	+1,005	109.5%	2.89	3.16
医療技術・その他	1,791	1,822	5,222	5,468	+246	104.7%	2.92	3.00
家政・生活科学	687	683	2,185	2,286	+101	104.6%	3.18	3.35
芸術・体育	1,202	1,348	4,503	7,622	+3,119	169.3%	3.75	5.65
総合・環境・情報・人間	2,171	2,202	7,479	8,093	+614	108.2%	3.44	3.68
国公立 計	77,708	78,156	249,859	261,289	+11,430	104.6%	3.22	3.34

※河合塾調べ（一部大学発表の数値と文部科学省資料の数値と異なる場合は大学発表値を優先）

※系統の分類は河合塾による

同様に志願者が減少したものの、一橋大（経済）で前年比139.8%と大幅に増加した。一橋大は、昨年募集人員増の影響で志願者数が大幅に増加した商学部が、その反動から今年は2割減となり、これも経済学部の志願者増に影響したと考えられる。

隔年現象が目立つのもこの系統の特徴だろう。今年も志願者が大きく増減した大学があり、系統内で前年の志願倍率を意識した動きが強く感じられた。埼玉大（経済）137.4%や金沢大（経済学類）131.9%、北九州市立大（経済）152.3%、長崎県立大（経済）170.1%などが大幅に志願者増加となった。一方、福島大（経済経営学類）、佐賀大（経済）、大分大（経済）は昨年志願者が大幅に増加した反動もあり、大幅に志願者を減少させた。

[教育—教員養成課程・総合科学課程]

教員養成課程は、前年比108.6%と大幅に志願者が増加した。一昨年までは、不人気系統の代名詞というイメージもあった教員養成課程であるが、景気悪化に伴う資格系学部の見直しもあってか、昨年からやや人気を持ち直し、今春入試ではその人気は鮮明となっている。

総合科学課程も前年比107.0%と同様に増加傾向を示した。教育学部では課程再編の動きが相次いでおり、今春も東京学芸大が総合科学課程140名分の定員を教員養成課程へシフトするなど、総合科学課程は縮小傾向にある。それでも志願者が増加したのは、国立大のなかでも比較的難度が低い募集区分が多く、系統全体に狙い目という感じがあったからだろう。特に今年のようにセンター試験の平均点がダウンした年には、他系統から本系統に志望を切り替える受験生が多くなる傾向がある。

[図表12]のように主な教員養成系学部の志願状況を見ても、北海道教育大(教育)106.8%、東京学芸大(教育)114.7%、愛知教育大(教育)115.9%、大阪教育大(教育)113.1%、広島大(教育)135.1%、福岡教育大(教育)124.7%といった地区内の拠点大学をはじめ、志願者数が増加した大学が多くなっており、人気は全国的なものといえる。

[理]

昨春入試では、難関大を中心に志願者の増加が目立ち、人気系統となった理学系だが、今年度の志願者数は前年比100.9%と前年並みに落ち着いた。また、センター試験で理系受験生の平均点が大きく下がったことも影響してか、系統内で安全志向が感じられる状況となっている。

個別の大学を見ていくと、北海道大、東北大、京都大、神戸大といった難関大での志願者減少が目立った。京都大

や東北大は昨年極端に志願者を増やした反動であろう。

それでも、大阪大（理）118.7%、広島大（理）117.9%で志願者が増加したほか、昨年ノーベル賞受賞で注目され志願者を大きく増やした名古屋大（理）も前年比96.2%と微減にとどまるなど、系統全体の人気は低下しているわけではないようだ。このほか筑波大（理工学群—数学・物理・化学）116.6%、信州大（理）144.4%などでも志願者が大幅に増加した。

[工]

模擬試験では志望者の減少が目立ち、人気の低下が感じられた工学系だが、系統全体の志願者数は2,407人増（前年比103.9%）と理系では最も増加率が高くなった。今年から分離・分割方式となった高知工科大（システム工、環境理工）の志願者数975人が加わった影響も大きい、それを差し引いても志願者が集まったとみてよい。

大学別に見ると、東京大（理科一類）が前年比105.0%となったほか、北海道大（工）104.5%、京都大（工）105.0%、神戸大（工）106.0%と難関大での志願者の増加が目立った。いずれも、昨春入試で志願者が減少していたことや、昨春入試で人気の高まりを見せた理学系が敬遠されていることも増加の要因だろう。

このほか、大分大（工）が612人→1,255人（前年比205.1%）と極端な増加を見せたのをはじめ、公立はこだて未来大（システム情報科学）145.2%、山形大（工）127.2%、首都大学東京（システムデザイン）127.8%、富山県立大（工）193.1%、山梨大（工）125.8%、鳥取大（工）130.3%など2割以上志願者を増やした大学も多い。電気通信学部を改組して情報理工学部とした電気通信大も前年比125.7%と志願者が増加した。

後期日程では、入試改革を行った岐阜大（工）の志願者数が前年の248人から1,700人（前年比685.5%）となった。前期日程から後期日程へ募集人員を69名シフトし、入試科目もセンター試験の科目を軽減する代わりに2次試験で新たに学科試験を課す2次勝負型へと変更したことで、予想通り志願者が大幅に増加した。

分野別では、「応用化学」「生物工」分野での志願者増加が目立つほか、昨春入試で人気は低下していた「機械・航空」「建築」「土木・環境」分野にも志願者が戻っている。

[農・林・水産・獣医]

理学系同様、昨年の入試で人気系統となった農・林・水産・獣医学系は、前年比99.3%と今年は落ち着いた志願状況となった。

分野別に見ると「獣医」は志願者1割減と人気の低下が続いている。帯広畜産大(畜産-獣医学)82.8%、北海道大(獣医)85.7%、岩手大(農-獣医学)83.0%、東京農工大(農-獣医)85.8%、岐阜大(応用生物科学-獣医)73.2%、鳥取大(農-獣医)85.8%、山口大(農-獣医)83.7%と、「獣医」分野を抱える10大学中7大学で1割以上の志願者減となった。

獣医を除く分野は比較的堅調に志願者が集まった。ただし、昨年志願者が大幅に増加した大学は敬遠された。難関大では北海道大(農)85.5%、東北大(農)89.8%、神戸大(農)89.5%など。難関大以外でも茨城大(農)50.0%、香川大(農)68.3%などで志願者が大幅に減少した。

【医・歯・薬・保健】

系統全体では、前年比103.7%と志願者が増加したが、前述のとおり「看護」分野の人気上昇が志願者増を牽引している。

「看護」は約1割の志願者増となった。都市部・地方問わず志願者の増加が目立ち、教員養成課程と同様に人気は全国的なものとなっている。難関大でも東北大が前年比135.8%、京都大が124.3%、大阪大が135.3%と大きな伸びを示したほか、北海道大、名古屋大、九州大も志願者が増加した。

「医療技術」分野も志願者が増加した。近年、人気を落としていた「理学療法学」「作業療法学」といったり

ハビリ系の分野でも志願者の増加が目立った。

昨年に続き国策に伴う定員増となった医学科は、前期日程の募集人員が183名増となったものの、志願者数は前年比100.8%と微増にとどまった。志願倍率は前年の5.02倍から0.22ポイントダウンして4.80倍となった。極端な易化とはならずとも全体的にはボーダーライン付近で競争の緩和が見込めそうだ。

2004年度以降志願者の減少が続き、2009年度までの5年間で約4割の志願者減となっていた歯学部は、前年比102.2%と志願者が増加に転じた。大学別に見ても、北海道大、東北大、大阪大、九州大と旧帝国大の歯学部はいずれも志願者が増加した。志願者の減少が続いていた間、これら難関大のボーダーラインも低下し、他学部と比べると入りやすいイメージが増していたことも、志願者を呼び込んだ要因だろう。

歯学部と同様に志願者の減少が続いた薬学部も、前年比98.7%と微減にとどまり志願者の減少に歯止めがかかった。

【芸術・体育】

前期日程の志願者数は約3千人増となったが、これは今年度より後期日程から前期日程へ日程変更をした東京芸術大(美術)の志願者数3,710人が加わった影響によるもの。その東京芸術大(美術)の志願者数は、前年の4,046人から336人減となった。他の美術系が前期日程中心で実施されており、従前のように併願できなくなったことから、他大学を本命とする受験生が抜けた分減少につながったようだ。逆

【図表12】主な教員養成系学部の志願状況

大学(学部)	募集人員	09年度	10年度	前年差	前年比
北海道教育	666	1,679	1,794	+115	106.8%
弘前	130	369	350	-19	94.9%
岩手	136	468	373	-95	79.7%
宮城教育	213	545	522	-23	95.8%
秋田(教育文化)	186	633	723	+90	114.2%
山形(地域教育文化)	148	411	412	+1	100.2%
茨城	186	765	775	+10	101.3%
宇都宮	129	362	518	+156	143.1%
群馬	150	368	377	+9	102.4%
埼玉	345	1,240	1,210	-30	97.6%
千葉	356	1,037	1,119	+82	107.9%
東京学芸	735	2,176	2,495	+319	114.7%
横浜国立(教育人間)	310	724	812	+88	112.2%
新潟	231	671	788	+117	117.4%
上越教育(学校教育)	77	192	238	+46	124.0%
福井(教育地域科)	87	218	256	+38	117.4%
山梨(教育人間科)	117	697	702	+5	100.7%
信州	165	347	405	+58	116.7%
静岡	246	855	775	-80	90.6%
愛知教育	546	1,316	1,525	+209	115.9%
岐阜	160	767	763	-4	99.5%
三重	162	692	772	+80	111.6%

※河合塾調べ

大学(学部)	募集人員	09年度	10年度	前年差	前年比
滋賀	135	360	372	+12	103.3%
京都教育	162	321	359	+38	111.8%
大阪教育	606	1,578	1,785	+207	113.1%
兵庫教育(学校教育)	80	260	270	+10	103.8%
奈良教育	173	609	640	+31	105.1%
和歌山	118	442	374	-68	84.6%
島根	92	268	214	-54	79.9%
岡山	181	397	450	+53	113.4%
広島	331	542	732	+190	135.1%
山口	182	568	575	+7	101.2%
鳴門教育(学校教育)	64	272	299	+27	109.9%
香川	103	279	291	+12	104.3%
愛媛	134	400	358	-42	89.5%
高知	90	332	307	-25	92.5%
福岡教育	418	1,133	1,413	+280	124.7%
佐賀(文化教育)	147	506	418	-88	82.6%
長崎	127	241	334	+93	138.6%
熊本	224	426	507	+81	119.0%
大分(教育福祉科)	144	650	755	+105	116.2%
宮崎(教育文化)	144	491	427	-64	87.0%
鹿児島	187	455	495	+40	108.8%
琉球	130	432	524	+92	121.3%

に、前期日程から後期日程へ日程変更を行った愛知県立芸術大（美術）は、志願者数が670人→904人へと増加した。

「スポーツ・健康」分野では、筑波大（体育）が前年比119.5%と増加したのが目を引く。

Part 3 私立大学

センター方式が人気 最難関グループでは志願者減少が続く

ここからは私立大入試について、現時点で志願者数が判明している190大学の集計（3月10日現在、2期および2部・夜間主は集計対象外）から検証する。なお、この190大学の2009年度の志願者数合計は昨年の私立大志願者数の8割以上にあたり、今春入試の概観は現段階でも十分につかめるものとする。

上記190大学の集計では、志願者数は前年比で103.0%と増加している【図表13】。今年は18歳人口が18年ぶりに増加に転じたことに加え、高校生の大学志願率は今春も上昇したものと考えられる。受験人口の増加に伴い、最終的な私立大志願者総数も増加が見込まれる。

入試方式別に見ると、志願者の前年比は一般方式で100.9%、センター方式で107.6%となっており、志願者増加の中心がセンター方式であることが今年の特徴の1つである。センター方式は受験料が安く、多くの場合は試験会場に足を運ぶ必要がないため、受験費用を抑えることができる。また、今年は新型インフルエンザの流行が懸念されていたが、センター方式では感染リスクが抑えられる。このため、今年はセンター方式を積極的に活用しようという動きが強くなったようだ。

さらに、今年の私立大入試の特徴として挙げられるの

が、受験生の地元志向と安全志向である。不況を背景に、できるだけ自宅から通える大学を受験生が選択した結果、地方から都市部への動きが小さくなっている。また、浪人は避けたいという思いから、慎重な出願をしている様子も随所にうかがえた。

こうした受験生の動きに大きく影響されたのが、全国区の難関大である。大学グループ別の志願状況に目を向けると、「早慶上理」で前年比96.9%、「関関同立」で同96.1%と、東西の最難関グループでは志願者が減少した。「早慶上理」では上智大の志願者数が微増となっているほかは、慶應義塾大（前年比96.7%）、東京理科大（同98.6%）、早稲田大（同95.3%）といずれも減少した。早稲田大では大学全体の志願者数が5千人以上も減少した。中でもセンター方式での志願者減少が大きく、昨年センター方式を導入して人気を集めた社会科学部で志願者が半減したほか、商学部、人間科学部などで減少数が大きくなった。これらの学部では5教科6科目と科目負担が大きいうえ、センター試験で高得点が必要なため、敬遠した受験生が多かったのではなかろうか。

代わって志願者数を伸ばしたのが「MARCH」「日東駒専」の各グループである。「MARCH」では、グループ全体の志願者数は前年比103.8%と増加した。特にセンター方式では111.0%と1割以上の増加となった。青山学院大、法政大、明治大でのセンター利用学部の拡

【図表13】私立大 大学グループ別志願状況

大学グループ	一般方式				センター方式				合計			
	08年度	09年度	10年度	10/09	08年度	09年度	10年度	10/09	08年度	09年度	10年度	10/09
190大学計	1,487,803	1,493,173	1,506,076	100.9%	679,776	689,377	741,630	107.6%	2,167,579	2,182,550	2,247,706	103.0%
早慶上理	206,616	204,245	200,359	98.1%	45,113	40,530	36,728	90.6%	251,729	244,775	237,087	96.9%
MARCH	268,338	268,091	268,729	100.2%	132,825	131,898	146,445	111.0%	401,163	399,989	415,174	103.8%
東京4大学	47,022	51,114	50,763	99.3%	22,440	22,690	21,062	92.8%	69,462	73,804	71,825	97.3%
日東駒専	120,409	124,842	129,780	104.0%	71,673	77,582	83,872	108.1%	192,082	202,424	213,652	105.5%
首都圏理系9大学	60,026	66,382	74,509	112.2%	42,312	48,645	53,114	109.2%	102,338	115,027	127,623	111.0%
首都圏女子12大学	31,701	32,437	31,959	98.5%	23,214	23,882	25,642	107.4%	54,915	56,319	57,601	102.3%
関関同立	185,259	174,596	166,956	95.6%	79,137	78,351	76,018	97.0%	264,396	252,947	242,974	96.1%
産近甲龍	103,185	107,499	108,045	100.5%	38,528	36,382	37,543	103.2%	141,713	143,881	145,588	101.2%

※数値は3/10現在、河合塾集計 ※2期入試および夜間主・2部は集計対象外

※大学グループ 早慶上理：早稲田・慶應義塾・上智・東京理科 MARCH：明治・青山学院・立教・中央・法政 東京4大学：学習院・成蹊・成城・武蔵
日東駒専：日本・東洋・駒澤・専修 首都圏理系9大学：芝浦工業・東京電機・千葉工業・工学院・東京工科・麻布・東京農業・神奈川工科・北里
首都圏女子12大学：津田塾・東京女子・日本女子・大妻女子・学習院女子・共立女子・実践女子・昭和女子・白百合女子・清泉女子・
東洋英和女学院・フェリス女学院 関関同立：関西・関西学院・同志社・立命館 産近甲龍：京都産業・近畿・甲南・龍谷

大も大きな要因だが、既存の学部・学科でも志願者が増加したところが目立つ。河合塾が実施したセンター試験後の志望調査では成績上位層で志望者が増えており、より確実な合格を狙って「早慶」から「MARCH」に志望を切り替えた受験生も多かったようだ。

「日東駒専」も2006年度を底に志願者数は増加を続けている。このほか「首都圏理系9大学」「首都圏女子12大学」の各グループでも志願者が増加した。首都圏ではとりわけ受験人口の増加数が大きくなっている。このため、首都圏の大学で志願者の増加が目立つ。

近畿圏では「関関同立」が前年比96.1%と志願者減となった。大学別に見ても、いずれの大学も減少した。特に立命館大では前年から1割近く志願者が減少した。立命館大は4大学の中でも他地区出身志願者の割合が高く、受験生の地元志向の影響を強く受けたものと考えられる。他の大学も関西大（社会安全、人間健康）、関西学院大（国際）といった新学部では志願者が集まったものの、既存学部では志願者の減少が目立った。一方、「産近甲龍」では微増ながら今年も志願者数を伸ばした。

教育、看護など資格に直結する分野が人気

【図表14】は学部系統別の志願動向である。全体に文低理高の動向となっている。文系では「文・人文」「社会・国際」で増加、「経済・経営・商」で微減となっている。「文・人文」では教育分野での志願者の増加が目立つ。青山学院大（教育人間科学）、國學院大（人間開発-初等教育）の新規センター利用、明治学院大（心理-教育発達）

の新設のほか、文教大、岐阜聖徳学園大、佛教大など各地の伝統校を中心に志願者が増加している大学が目立つ。

「法・政治」では系統全体では前年比101.5%だが、難関大では志願者が減少したところが目立つ。特に慶應義塾大、早稲田大では2年連続で志願者が大きく減少した。一方、獨協大、亜細亜大、國學院大、駒澤大、専修大などでは志願者が大きく増加した。法科大学院の不振から法学系は全体に不人気となっていたが、中堅の大学ではこの2年ほどで志願者数が大きく増加したところも見られる。法学系は公務員に強く、そこに人気の理由があるかもしれない。

理系では、「理」「工」「農・林・水産・獣医」のいずれの系統も志願者が増加した。「理」「農・林・水産・獣医」では昨秋の模擬試験時点でも人気が高かったが、「工」では志望者数は前年を割り込んでいた。しかし、実際の入試では志願者を集め、前年比は105.7%と大きく伸びた。詳細分野では、模擬試験時には人気がなかった建築、土木・環境分野で志願者が増加しているほか、人気分野であった応用化学、生物工などでは志願者が大きく増加している。

このほか「医・歯・薬・保健」の医、看護分野、「家政・生活科学」の食物・栄養、児童といった分野で志願者が大きく増加している。大学生の新卒採用における苦戦が伝えられるなか、地元で就職が見込めそうな分野には志願者が集まっている。なお、資格系分野でも「獣医」「薬」は志願者減少が続いている。

各地区主要大学の志願状況

次に各地区主要大の志願状況（判明分）をしてみる

【図表14】私立大 学部系統別志願状況

系統	一般方式				センター方式				合計			
	08年度	09年度	10年度	10/09	08年度	09年度	10年度	10/09	08年度	09年度	10年度	10/09
文・人文	311,780	315,275	314,091	99.6%	128,622	131,592	146,100	111.0%	440,402	446,867	460,191	103.0%
社会・国際	148,622	142,896	146,909	102.8%	67,448	69,487	72,902	104.9%	216,070	212,383	219,811	103.5%
法・政治	150,213	145,970	142,638	97.7%	73,594	68,441	75,008	109.6%	223,807	214,411	217,646	101.5%
経済・経営・商	369,186	369,379	361,734	97.9%	150,451	149,816	155,451	103.8%	519,637	519,195	517,185	99.6%
理	51,692	54,753	59,720	109.1%	31,641	33,995	35,517	104.5%	83,333	88,748	95,237	107.3%
工	203,877	204,790	212,020	103.5%	119,697	123,054	134,647	109.4%	323,574	327,844	346,667	105.7%
農・林・水産・獣医	39,280	41,940	45,731	109.0%	21,755	23,488	25,601	109.0%	61,035	65,428	71,332	109.0%
医・歯・薬・保健	77,366	75,194	77,563	103.2%	27,024	28,168	28,882	102.5%	104,390	103,362	106,445	103.0%
医	24,860	24,015	26,385	109.9%	5,284	5,486	5,906	107.7%	30,144	29,501	32,291	109.5%
歯	1,965	1,216	1,223	100.6%	506	315	422	134.0%	2,471	1,531	1,645	107.4%
薬	26,731	25,635	22,893	89.3%	13,246	12,478	11,614	93.1%	39,977	38,113	34,507	90.5%
看護	9,040	9,452	11,526	121.9%	2,855	3,458	4,670	135.0%	11,895	12,910	16,196	125.5%
医療技術・その他	14,770	14,876	15,536	104.4%	5,133	6,431	6,270	97.5%	19,903	21,307	21,806	102.3%
家政・生活科学	23,867	24,371	26,929	110.5%	11,373	11,242	12,847	114.3%	35,240	35,613	39,776	111.7%
芸術・体育	46,845	47,261	47,108	99.7%	20,876	18,786	20,335	108.2%	67,721	66,047	67,443	102.1%
総合・環境・情報・人間	65,075	71,344	71,633	100.4%	27,295	31,308	34,340	109.7%	92,370	102,652	105,973	103.2%
全体	1,487,803	1,493,173	1,506,076	100.9%	679,776	689,377	741,630	107.6%	2,167,579	2,182,550	2,247,706	103.0%

※数値は3/10現在、河合塾集計

※2期入試および夜間主・2部は集計対象外

【図表15】。

◆ 青山学院大学

昨年は学部新設などで大きく志願者が増加した。その反動で、今春の大学全体の志願者は前年比97.9%と減少した。方式別に見ると、一般方式で95.8%、センター方式で102.9%と一般方式で減少が目立つ。一般方式では今年から全学部日程を導入したものの、志願者は既存方式との間で分散し、志願者増加とはならなかった。センター方式では既存の学部・学科では志願者減少が目立つものの、教育人間科学部など新規にセンター方式を導入

した学部・学科では志願者を集め、増加につながった。

◆ 慶應義塾大学

大学全体の志願者数は昨年から約1,600人減少した（前年比96.7%）。これは2年連続の志願者減となる。方式別では一般方式で前年比97.1%、センター方式で同91.9%と、センター方式で減少幅が大きくなった。センター方式を実施しているのは法、薬の2学部だが、ともに志願者は2年前と比べ半減している。一般方式では商、看護医療学部で志願者が増加したものの、他学部は減少、特に医、薬、環境情報、総合政策学部などで減少幅が大きくなった。

【図表15】主要私立大 志願状況

大学名	一般方式				センター方式				合計			
	08年度	09年度	10年度	10/09	08年度	09年度	10年度	10/09	08年度	09年度	10年度	10/09
北星学園	2,313	2,430	2,173	89.4%	1,183	920	876	95.2%	3,496	3,350	3,049	91.0%
北海学園	4,622	4,756	4,412	92.8%	2,136	1,722	1,852	107.5%	6,758	6,478	6,264	96.7%
東北学院	7,346	6,715	6,643	98.9%	2,517	2,931	3,232	110.3%	9,863	9,646	9,875	102.4%
青山学院	33,130	38,156	36,550	95.8%	12,513	15,850	16,317	102.9%	45,643	54,006	52,867	97.9%
学習院	14,338	15,458	13,765	89.0%	—	—	—	—	14,338	15,458	13,765	89.0%
北里	10,426	9,812	10,280	104.8%	4,920	4,495	4,776	106.3%	15,346	14,307	15,056	105.2%
慶應義塾	46,786	46,462	45,110	97.1%	6,530	3,427	3,150	91.9%	53,316	49,889	48,260	96.7%
国際基督教	1,768	1,865	1,754	94.0%	874	891	906	101.7%	2,642	2,756	2,660	96.5%
駒澤	18,594	18,032	18,406	102.1%	12,081	10,114	12,111	119.7%	30,675	28,146	30,517	108.4%
芝浦工業	13,179	16,413	17,460	106.4%	10,786	12,445	14,123	113.5%	23,965	28,858	31,583	109.4%
上智	23,799	24,229	24,531	101.2%	—	—	—	—	23,799	24,229	24,531	101.2%
成蹊	15,148	16,264	16,058	98.7%	8,471	8,209	9,147	111.4%	23,619	24,473	25,205	103.0%
成城	8,856	10,245	9,525	93.0%	7,230	8,353	7,522	90.1%	16,086	18,598	17,047	91.7%
専修	17,822	16,811	19,599	116.6%	11,836	11,465	12,467	108.7%	29,658	28,276	32,066	113.4%
中央	39,601	45,740	42,746	93.5%	41,080	38,801	38,452	99.1%	80,681	84,541	81,198	96.0%
津田塾	2,475	2,098	2,029	96.7%	3,673	3,046	3,161	103.8%	6,148	5,144	5,190	100.9%
東海	13,822	13,022	13,945	107.1%	8,326	8,617	8,797	102.1%	22,148	21,639	22,742	105.1%
東京理科	30,528	31,740	30,884	97.3%	18,837	17,751	17,897	100.8%	49,365	49,491	48,781	98.6%
東洋	30,996	35,670	35,822	100.4%	21,703	26,643	27,229	102.2%	52,699	62,313	63,051	101.2%
日本	52,997	54,329	55,953	103.0%	26,053	29,360	32,065	109.2%	79,050	83,689	88,018	105.2%
法政	71,060	63,408	64,362	101.5%	24,768	21,523	28,700	133.3%	95,828	84,931	93,062	109.6%
武蔵	8,680	9,147	11,415	124.8%	6,739	6,128	4,393	71.7%	15,419	15,275	15,808	103.5%
明治	77,800	74,438	79,620	107.0%	29,829	31,132	35,461	113.9%	107,629	105,570	115,081	109.0%
明治学院	17,390	15,855	15,820	99.8%	10,502	10,536	11,951	113.4%	27,892	26,391	27,771	105.2%
立教	46,747	46,349	45,451	98.1%	24,635	24,592	27,515	111.9%	71,382	70,941	72,966	102.9%
早稲田	105,503	101,814	99,834	98.1%	19,746	19,352	15,681	81.0%	125,249	121,166	115,515	95.3%
愛知	7,504	8,563	9,072	105.9%	4,491	4,428	4,435	100.2%	11,995	12,991	13,507	104.0%
中京	10,685	11,738	9,897	84.3%	8,561	6,012	6,797	113.1%	19,246	17,750	16,694	94.1%
南山	14,048	13,842	13,967	100.9%	7,702	7,416	7,941	107.1%	21,750	21,258	21,908	103.1%
名城	17,992	18,675	17,381	93.1%	8,525	8,431	8,993	106.7%	26,517	27,106	26,374	97.3%
京都産業	12,983	18,573	17,887	96.3%	9,316	8,053	8,472	105.2%	22,299	26,626	26,359	99.0%
同志社	43,645	40,547	38,239	94.3%	5,596	5,941	7,353	123.8%	49,241	46,488	45,592	98.1%
立命館	46,299	40,255	37,221	92.5%	37,026	35,975	32,340	89.9%	83,325	76,230	69,561	91.3%
龍谷	27,823	28,784	27,194	94.5%	7,749	6,635	7,399	111.5%	35,572	35,419	34,593	97.7%
関西	62,824	61,103	58,932	96.4%	20,308	18,190	19,234	105.7%	83,132	79,293	78,166	98.6%
近畿	47,056	46,153	50,149	108.7%	11,886	13,079	12,667	96.8%	58,942	59,232	62,816	106.1%
関西学院	32,491	32,691	32,564	99.6%	16,207	18,245	17,091	93.7%	48,698	50,936	49,655	97.5%
甲南	15,323	13,989	12,815	91.6%	9,577	8,615	9,005	104.5%	24,900	22,604	21,820	96.5%
広島修道	5,435	5,464	5,304	97.1%	1,965	1,979	2,433	122.9%	7,400	7,443	7,737	104.0%
西南学院	13,295	12,756	11,833	92.8%	2,879	5,992	6,879	114.8%	16,174	18,748	18,712	99.8%
福岡	30,636	29,485	28,559	96.9%	4,682	7,587	10,719	141.3%	35,318	37,072	39,278	106.0%

※数値は3/10現在、河合塾集計

※2期入試および夜間主・2部は集計対象外

◆上智大学

志願者数は前年比101.2%で、昨年並みの志願者が集まった。ただし、学部によって状況が異なる。2次試験を廃止し、面接を課さなくなった文学部の志願者数は、前年より約1,000人増加した（前年比139.2%）。また昨年大きく志願者が減少した外国語学部でも前年比111.7%と増加した。一方で法学部では大きく志願者を減らし、ここ10年で最も少ない志願者数となった。

◆中央大学

センター方式では志願者数は前年並みだが、一般方式では前年比93.5%と大きく減少した。一般方式では昨年は統一入試の導入などで大きく志願者数を増やしたため、その反動が出たようである。学部別に見ると、文系の各学部では一般・センター方式ともに隔年現象による増減が目立った。理工学部では一般・センター方式ともに2年連続で志願者が増加、特に一般方式の今年の志願者数は1万人を超えており、人気となった。

◆東京理科大学

大学全体の志願者数は前年比98.6%、微減となった。方式別には一般方式で前年比97.3%、センター方式で同100.8%と一般方式で減少した。一般方式では経営、工、薬学部で志願者が減少、理、基礎工学部では増加した。センター方式の志願者はA方式で減少、個別試験併用のC方式で増加した。薬学部では一般方式同様、志願者の減少が目立った。

◆法政大学

MARCHの中では明治大と並び、志願者数を大きく増やした（前年比109.6%）。方式別では、一般方式で前年比101.5%、センター方式同133.3%と増加の主な要因はセンター方式にある。センター方式ではスポーツ健康学部の新規実施による志願者増に加え、既存学部ではキャリアデザイン学部を除く全学部で志願者が増加した。いずれも昨年大きく志願者を減らしており、その反動も大きくなったようである。

学部別に見ると、社会、経済、経営学部で志願者の増加が目立った。特に経済学部では約3千人、経営学部では約2,500人と志願者を大きく増やした。一方で文、人間環境学部は2年連続の志願者減となった。

◆明治大学

大学全体の志願者数は11万人を超えた。【図表15】では3月実施分のセンター方式の志願者数が含まれていないが、その分を含めると志願者数は早稲田大を抜いて全

国一となる。方式別に見ると、一般方式で前年比107.0%、センター方式で同113.9%と、志願者はいずれも増加した。センター方式では国際日本学部の志願者が昨年の455人から2,537人へと2千人以上増加した。これは新たに3科目型を導入したため、増加分はほぼこの3科目型の志願数に相当する。このほか、文、理工学部などで志願者が大きく増加した。学部別に見ると、昨年志願者を減らした国際日本、文、法、商、理工学部で志願者が大きく増加し、昨年の反動が見られた。

◆立教大学

昨年、志願者数は微減となったが、今春は再び増加に転じた。一般方式は前年比98.1%と減少を続けているが、センター方式では同111.9%と大きく増加した。これはセンター方式の複線化拡大の効果である。ただし、現代心理、異文化コミュニケーション学部などでは、既存の3教科型に加えて新たに4教科型を導入したが、志願者は両教科型に分散し、大きな志願者増につながらなかった。一方、観光学部では既存の4教科型に加え3教科型を導入したため、3教科型だけで2,500人近い志願者が集まり、人気となった。学部別に見ると、前年志願者の増減による反動が見られる学部が目立つが、特に文、経済学部では昨年との増減差が大きくなっており、次年度入試では隔年現象に注意が必要である。

◆早稲田大学

志願者数は前年比95.3%と2年連続で減少したが、依然として11万人を超えている。方式別では一般方式で前年比98.1%、センター方式で同81.0%とセンター方式での減少幅が大きくなった。センター方式ではスポーツ科学部で小論文方式を廃止、新たに個別試験併用と個別試験なしの2方式を導入し、前年比148.7%と志願者を増やしたが、社会科学、商、人間科学部などで大幅に志願者が減少し、方式全体では減少となった。

一般方式では、人気系統の教育学部をはじめ、文、社会科学、法、政治経済、創造理工、スポーツ科学の各学部で2年連続の志願者減となった。社会科学、法学部の志願者はこの2年で1,000人以上も減少した。また、創造理工学部でも昨年に続き今年も1割程度の減少となった。

◆南山大学

大学全体の志願者数は前年比103.1%と増加した。方式別の志願者は、一般方式で前年比100.9%、センター方式で同107.1%と、センター方式で伸びた。学部別に見ると、人文、経済、経営学部などで志願者が増加した。

人文学部は昨年の志願者減の反動とみられるが、経営学部では2年連続で志願者が増加している。一方で総合政策学部では、2年連続で志願者が大きく減少した。

◆同志社大学

大学全体の志願者数は2年連続で減少した。方式別に見ると、一般方式で前年比94.3%、センター方式で同123.8%と、対照的な動向となった。センター方式での志願者の増加は政策、理工、生命医科学の3学部で大きく志願者数が伸びたためである。政策学部は新たに導入した3科目型に志願者が集まった。理工（機械システム工、エネルギー機械工）、生命医科学部では面接が廃止され、センター試験のみで合否判定が行われるようになった。受験生の負担が軽減されたため、この2学部でも志願者が増加した。なお、文、社会、経済学部など文系の学部では志願者の減少が目立った。一般方式では大学全体で約2,300人も志願者が減少したが（前年比94.3%）、中でも社会、心理、文化情報学部では昨年より1割以上志願者が減少した。

◆立命館大学

大学全体の志願者数は前年比91.3%と昨年より1割近く減少した。昨春入試でも前年より1割程度減少しており、2年連続の大幅減である。今春はSA方式、理科重視3教科型などを廃止するとともに新たに学部A方式、W方式などを導入、一般方式を中心に入試改革を進めたが、志願者減少は止まらなかった。立命館大は他地区出身志願者の割合が高いため、不況の影響も強く受けたものと推測される。学部別に見ると、今春新設されるスポーツ健康科学部では1,500人を超える志願者を集めた。一方、大きく志願者を減らしたのが、経営（約2,600人減）、政策科学（約1,400人減）、生命科学（約1,700人減）、理工学部（約2,000人減）などである。経営、政策科学部はここ数年隔年現象が見られる。

◆関西大学

今春は人間健康、社会安全の2学部を新設し、両学部とも2千人を超える志願者を集めた。また外国語学部でも新たにセンター方式を導入して志願者を増やした。しかし、大学全体の志願者は前年比98.6%と伸びなかった。志願者減少が目立つのが、文、社会、法、経済、商学部など文系の学部である。特に文、法学部では2年連続で1割以上志願者が減った。方式別に見ると志願者の前年比は、一般方式96.4%、センター方式105.7%となった。センター方式の増加は新規にセンター方式を導入した外国語学部の影響である。その他の学部では、商、政策創造、総合情報学部が

昨年の反動で志願者を増加させたものの、法、経済、システム理工学部などでは2年連続の減少となった。

◆関西学院大学

学部の新設や改組、入試改革などにより、昨年まで5年連続で志願者を増やしてきたが、今年は前年比97.5%と減少に転じた。今春は国際学部を新設、2千人を超える志願者を集めたが、既設の学部では、文、社会、法、経済、商学部など志願者を減らした学部が目立った。文、社会学部では国際学部新設の影響もあり、減少数が大きくなった。一方、理工学部では入試方式複線化の拡大により、2年連続の志願者増となった。

◆西南学院大学

大学全体の志願者数は前年比99.8%と昨年並みだった。一般方式では前年比92.8%と減少したものの、センター方式で同114.8%と増加した。西南学院大のセンター方式志願者数は、ここ2年増加を続けている。これは入試改革の効果も大きく、併用方式を導入した昨年は、前年の2倍を超える志願者を集めた。今年はセンター併用方式を文（外国語－英語専攻）、人間科学（児童教育）で新規導入したほか、文（外国語－英語専攻）、商学部のセンター前期で科目数を減らした。

学部別に見ると、法、経済、商学部で志願者が減少、文、国際文化、人間科学部で増加した。法学部は2年連続の志願者減になった。

◆福岡大学

一般方式の志願者は前年比96.9%と減少したものの、センター方式では同141.3%と大幅に増加し、大学全体の志願者数は3万9千人を超えた。センター方式では人文、工学部でセンター試験を利用する学科を拡大、また商、工、医（看護）では、センター試験と一般入試の合計点で合否を判定するセンタープラス方式を追加した。特にセンタープラス方式に志願者が集まり、センター方式全体の志願者増加につながった。

学部別に見ると、志願者数は人文、法、商、理、工、医学部で増加、経済、薬学部などで減少した。このうち、経済、商の2学部の志願者数の増減（対前年）を見ると、08年→09年→10年で経済学部は減→増→減、商学部は増→減→増と、正反対の隔年現象を繰り返している。

* * * *

次号ガイドライン6月号では、合格者数も含めた入試結果や難易動向など2010年度の入試総括レポートをお届けする予定である。